

「2018年度立命館大学体育会剣道部夏季合宿を終えて」

2018年8月21日

執筆者：一回生 山本 静玖
(熊本県立阿蘇中央高等学校出身)

大学での剣道は高校の時の剣道とは違い、「自ら考え取り組むことが大事」だと感じました。そこで2018年度立命館大学体育会剣道部夏季合宿では、二つのことを自ら考え取り組みました。

一つ目は、「素振りの時に一拍子で振ること」です。私は打突が弱く、一本にできないことが多くありました。それを克服するために、素振りの仕方を変えようと思いました。一拍子で振ると竹刀の振りが早くなるだけでなく、腕や肩などの筋力もつき、打突が強くなるのではないかと考えたからです。すると、素振りの仕方を変えただけで「打突が良くなった」というお褒めの言葉をいただき、「素振りの仕方がとても大事」であると実感しました。この合宿だけでなく日頃の稽古でもそこを意識することで、私の打突の強さという課題を克服していきたいと思いました。

二つ目は「地稽古の質」です。私は試合の時に、時間内に勝つということがなかなかできませんでした。なぜ取れないのか自分でも分かっていなかったのですが、この合宿中に先輩と地稽古をしてわかりました。練習の時から鏝迫り合いが長く、分かれる時も相手に合わせて分かれる癖がついてしまっていて、体が小さいのに大きい人と同じようにしていることが原因でした。それから地稽古で分かれる時の早さ、分かれてからのつくりの早さ、足を使って攻めることや、素早く動くことを意識しました。今までの地稽古とは違いとてもきつかったですが勢いや動きながらの技、打った後にすぐ打てる体制をつくることができるようになり、色んな先輩と地稽古をしても今まで当たらなかった技が当たるようになりました。これは、「回数を重ねるだけでは絶対に身につかないこと」だと思いました。

最後に、この二点は意識したからといって、すぐに成果が出るわけではありませんが、これを継続し、日々の稽古の中でもしっかりと取り入れることで自分自身の成長につながると思います。今後もこの二つは必ず意識して取り組み、その上で「新たにもっと強くなるために何が必要なのかを考え取り組みたい」と思います。

今回の合宿で自分の剣道に対して、「自ら考え取り組むことはとても重要であり、成長につながる」ということを学びました。また、その学んだことを今後に繋げ、稽古に励みたいと思います。今後とも指導陣の先生方を含め、OB・OGの先輩方、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

